

参考文献

- 伊藤操子ら 2002. 日本のゴルフ場におけるツルスズメノカタビラの侵入実態. 雑草研究 47(2), 82-83.
- 小林央往ら 1985. ゴルフ場スズメノカタビラ集団のシマジン抵抗性について. 雑草研究 30(別), 123-124.
- 奥野潤一ら 2011. ALS 阻害型除草剤低感受性ヒメクグにおける ALS 遺伝子の解析. 芝草研究 40(別), 4-5.
- 奥野潤一ら 2018. ゴルフ場から採取したス

- ズメノカタビラにおける ALS 遺伝子の解析. 芝草研究 47(別 1), 28-29.
- 館野淳ら 2000. 日本のスズメノカタビラ (Poa annua L.) の分類と防除. 芝草研究 28(2),127-137.
- 土田邦夫ら 2011. 採取地の異なるヒメクグの各種除草剤に対する感受性. 芝草研究 40(別), 2-3.
- 土田邦夫 2015. 芝地における除草剤抵抗性雑草の現状と対策. 農業および園芸 90(1),187-190
- 土田邦夫 2018. 農薬の系統別解説. ゴルフ

- 場セミナー 2018(1-12).
- 土田邦夫ら 2018. 秋冬期における生育期のスズメノカタビラに対する各種除草剤の効果. 芝草研究 47(別 1), 22-23.
- 梅本信也ら 2001. 変種ツルスズメノカタビラの分類学的検討. 芝草研究 30(1),20-24.
- 奥野潤一ら 2011. ALS 阻害型除草剤低感受性ヒメクグにおける ALS 遺伝子の解析. 芝草研究 40(別), 4-5.
- 渡邊秀富・牛木雄一郎 2018. スズメノカタビラ防除の諸問題とその解決策を探る. 芝草研究 46(2), 159-166.

統計データから

果実の需給構造

平成 28 年の果実の国内需要推計 (7,302 千トン) のうち、国産品は約 4 割で、輸入品は約 6 割である。国内生産のうち、約 9 割は生鮮用である一方で、輸入品の約 6 割は果汁等加工品である。

輸入の生鮮用のうち 5 割はバナナで、主な輸入国はフィリピンで 8 割を占める。果汁等加工品のうち 5 割がオレンジ果汁とりんご果汁で、前者はブラジルからが 7 割、後者は中国 (K.O)

果実の需給構造 (平成 28 年推計)

国内生産 (40%) 2,918千トン	生鮮用 (88%) 2,579千トン	うんしゅうみかん 753千トン (29%) りんご 648千トン (25%) その他 1,178千トン (46%)
	果汁等加工品 (12%) 339千トン	りんご果汁等 117千トン (35%) うんしゅうミカン果汁・缶詰 52千トン (15%) その他加工品 170千トン (50%)
輸入 (60%) 4,384千トン	生鮮用 (41%) 1,811千トン	バナナ 958千トン (53%) パイナップル 143千トン (8%) オレンジ 102千トン (6%) グレープフルーツ 83千トン (5%) その他 490千トン (27%)
	果汁等加工品 (59%) 2,572千トン	オレンジ果汁 845千トン (33%) りんご果汁 553千トン (22%) その他加工品 1,174千トン (46%)

果実を巡る情勢 (令和元年 5 月版) 果汁, 加工品については生果に換算している。